

報道のあり方を考える

E-3-1
能登半島地震

【 対象 】 中学校・高校・一般 他

【 時間 】 50分

【 準備 】
キット 11-17

【 会場 】
教室 会議室など

【 参加者の持ち物 】
筆記用具 など

*このまま学校の授業として行うこともできる。1時間の授業ではなく、国語科や社会科の授業の中で、キットを参考資料として扱うこともできるだろう。

*また、教員等の研修として行うこともできる。その場合、特に講師は不要で、経験者や指導主事等が進めるとよい。

【 活動の流れ 】

(1) 緊急報道についての経験を発表する。

自分の経験したテレビのアナウンサーの報道やスマホの緊急地震報道などについての感想を発表しあう。

(2) 能登半島地震の際の報道の記事を読む。 (キット 11-17)

記事を読んで、報道のあり方についてグループ内で感想・意見を交換する。

いろいろな立場に思いを及ぼすことができるようアドバイスを。

参考 [「東日本大震災を思い出してください！」その時、ことばで命を守るか。NHK アナウンサーたちの10年 | NHK 取材ノート](#)

8-2-2-1 の 3 東京新聞 2015年9月15日「足が不自由 避難ためらう」

8-2-2-1 の 4 東京新聞 2015年12月28日「災害弱者に冷たい行政 外国人も被災、避難指示は日本語のみ」

下記なども使って、いろいろな場面に広げて考えるのもよいだろう。

参考 [NHK アナウンサーの命を守る“防災の呼びかけ” - NHK](#)

[「在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインほか | 文化庁 \(bunka.go.jp\)](#)

(4) 発表 グループでの話し合いを発表する。

【 その他 】 発展課題としてこれから自分で記事を集めていくのもよい。「耳の不自由な人へは」「日本語が不自由な人へは」など、テーマを決めて個人やグループで調べ、発表すると深い探究学習につながるだろう。